

## 目標達成計画

作成日: 平成 27年 2月 17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	○理念の共有と実践 スタッフで作上げたホームでのケアにおける心得やマナーとして相応しい理念であるが、利用者が地域の中の、このホームでその人らしく暮らし続ける本人本意の視点を加味した理念形成を期待したい。と指導された件について	今ある理念と介護ケアの心得は、FMCグループホーム開設時(平成15年4月)に、当時の介護スタッフ全員で熟考し作成したものであり、弊社の運営する3か所のホームも本運営理念を継承しているが、指導された件について、スタッフ全員で再考し形成することにする。	この度、指導された新たな理念形成について、その趣旨と意味を介護スタッフ全員に認識してもらい、そのうえで個々の意見を供出してもらい、それをスタッフ皆で協議し、作成することになります。スタッフからでる個々の意見を尊重した「入居者本意の介護理念」を形成します。	2ヶ月
2	4	○運営推進会議を活かした取り組み 地域密着型のグループホームとして、運営推進会議は概ね2か月に1回以上開催が義務規定であり、遵守が望まれる。参加者の要件である知見者の参加も期待したい。と指導された件について	現在、運営推進会議の参加者は、地元の自治会、老人会、民生委員、地域包括センター員と入居者・入居者のご家族、ホームから施設長、管理者、看護師、介護スタッフ数名で実施している。が、今後は知見者として市内の他のグループホーム関係者等の参加を要請したい	門真市内には6カ所の高齢者グループホームがあるので、次回の運営推進会議開催時に開催の案内状を他のグループホームに持参して参加を依頼することになります。また、門真市社会福祉協議会にも運営推進会議の開催案内状を持参し、参加要請を行い、知見者の増員を図ります。	2ヶ月
3	6	○身体拘束をしないケアの実践 出来るだけ散歩や外出の機会を設けているが、施錠による閉塞感は認知症の行動心理症状悪化の影響もあり、日中、スタッフの見守り可能な時間帯から、開錠の試行検討を行うことを期待したい。と指導された件について	認知症高齢者グループホームでは、入居者様の安全(命を守る)を第一に介護支援をさせて頂いているので、玄関ドアと裏口ドアの施錠をしているが、認知症高齢者に閉塞感を抱かせないように、危険のない範囲(介護スタッフの判断)でドアの施錠を開放することにする	ホームの前が大手スポーツショップの駐車場で、且つ、交通量の多い裏道でもあるので、玄関ドアは電気錠で開閉をしている。また、裏口ドアも同様に電気錠で開閉をしているが、今後は日中は裏口ドアをオープンにし、玄関ドアについては、日中に時間を限定して開放をすることになります。	1ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。